

平成30年度石川県産業教育審議会 議事録

- 1 日時 平成30年11月26日(月)14:00～16:00
- 2 会場 石川県庁1109会議室
- 3 参加者 委員 8名 出席(欠席7名)
小島 久枝、杉野 哲也、徳永 光晴、萩原 扶未子、端 久美、
平野 活彦、宮川 昌江、吉野 幸枝
- 4 審議会内容
 - (1) 本県の産業教育の取り組みについて(概要説明)
 - (2) 本県の専門学科、総合学科の現状について(意見交換)

○委員からの意見

- ・機械や機械システムなどの学科について、学習内容や、学科名を決めるのは学校の裁量か県か。
→学科の名称は、教育委員会と相談しながら決める。学科の中の選択科目は、学校が考え、最終的には、教育委員会が審査して認めている。
- ・学科名が違うと何が違うのか受検生や進路の教員が悩む。
- ・学んでいる実態と学科名が違うと企業や中学生の保護者が混乱しているという話がある。
→今後は、中身と名称の説明ができるように整理(統合ではなく)していく必要があると考えている。
- ・テクノロジーは、使う側と作る側で違う。今後は、使う側に立った設備を整備していく必要がある。
- ・昨年度の話であるが、企業に導入されている最先端の機械を工業高校に導入して学習するよりは、基礎・基本となる汎用機械をきちんと学習してきたほうがよい。最新技術は、概念だけ学習してきてくれれば良いということを言われたがその点についてはどうか。
→作る側からすれば、アナログの部分が分からないとプログラムできない。
→介護・看護のような使う側は、施設設備を充実した方がよい。
→施設・設備が良ければ、生徒も希望する。介護の世界も理解される。
→工業高校は、そんなたいそうな機械は不要。見本は、県工業試験場、見本市にある。
- ・金沢商業には観光、能登の高校には地域フロンティアがあるが、加賀はどうか。
→新幹線効果の大きな金沢商業の観光で、20人ほど選択者がいる。
高校生がどこまで観光学を学ぶとよいか、今後大学・企業と連携しながら詰めていく。

まとめ

- ・専門学科の名称、コース名は、中学生、保護者や産業界から見て分かりづらいものもあり、学習内容、カリキュラムを含めて検討してほしい。
- ・総合学科は、生徒一人一人に合った進路、石川県の良い点を示し、充足率を上げていく必要がある。
- ・総合学科は、課題もあることが分かったので、募集定員も含めて、学科や系列の見直しについて検討してほしい。